

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675400115号
法人名	医療法人 拓和会
事業所名	ろうけん大楠 グループホームたんぼぼ
所在地	鹿児島県 始良市 蒲生町 下久徳 1251番地 (電話) 0995-54-3101
自己評価作成日	令和1年 12月 25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、介護老人保健施設や居宅介護支援事業所と隣接し、母体事業所との連携体制も整っており、安心して生活できる環境です。天然温泉があり、入居者様の要望で毎日でも入浴できる様にしています。入居者様と共に支え合う関係作りを目指し、出来ることを見つけ役割をもって頂いています。蒲生市やどんと祭りなどに参加したり、たんぼぼ農園では、季節の野菜を作ったり、桜の時期には、バーベキューなどを行いながら、楽しみのもてる環境づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市の中心地より少し離れた閑静で自然豊かな地区に、母体医療法人の介護老人保健施設や居宅介護支援事業所と同一敷地に位置している。法人内の施設や医療機関とは連携が密に図られ、利用者の健康管理と災害時の安全確保に留意し、日常のケアの充実に管理者と職員は一体となり取り組んでおり、利用者や家族の安心に繋がっている。定例化された運営推進会議では、現状報告や各報告以外に必ず身体拘束や看取りなどの研修を取り入れ、活発な意見や要望は業務の改善やサービスの向上に反映されている。管理者及び職員は、理念に沿って利用者の尊厳や想いを大切に意向の把握に努め、利用者が笑顔の日々を過ごせる支援に取り組んでいる。管理者は日頃から職員との信頼関係や協力体制の構築に努め、意向や要望等を気軽に話し合いサービスの質の向上に繋げている。食事が楽しみになるよう、調理の下ごしらえ・配膳・テーブル拭き等、利用者や職員が共に助け合い行いながら、利用者の食べたい食事をメニューに反映させている。外食や外出など、利用者が楽しい時間を過ごせるよう工夫し過ごしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に、皆で理念で理念を唱和することで意識づけを図り、関わりの中で反映されるよう努めている。理念の中から、年度方針・目標を定めて取り組んでいる。	理念に沿った年度方針・目標を管理者と理事長で決めている。日々のケアの中でも、理念を意識し職員で互いに協力し合っている。申し送り時の唱和や事業所内に掲示し、目に付く事で振り返りの意識付けとなっている。職員は理念を共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	蒲生市やどんと祭りなど地域行事に参加したり、地域の方がボランティア等で施設に訪問に来られ、地域との交流を図っている。	法人の夏祭りには、地域の方の参加もある。祭りにはホームの菜園で収穫した野菜で食品を作り、店を出している。ボランティア・体験学習・実習生の受入れも行っている。また認知症に関する報告や情報の提供、また相談等にも助言するなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の中学生の職場体験学習の受け入れや運営推進会議などで、民生委員の方々に認知症関連の議題を通して実践報告や情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・入居者様家族・役所職員・民生委員の方々と協力を得、活動報告を行っている。救急講習会などにも参加していただき、意見交換を行い、改善や実践に取り組んでいる。	定例化された会議では、現状報告・行事報告・ヒヤリハット報告等を行い、情報交換や意見交換の場となっている。必ず身体拘束や看取りなどの研修を取り入れた会議となっており、出された意見や内容は、業務の改善やサービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで、事業所の取り組みなどを報告、アドバイスや地域活動情報などを頂いたりと協力関係を築けている。	市の担当者には、電話や訪問で各種制度の手続きや相談を行い、助言や指導をもらうなど話し易い関係が出来ている。地域包括からの研修会には参加し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、定期的に勉強会などを行いながら意識づけをしている。身体拘束のみならず精神的拘束にも気をつけている。	身体拘束に関するマニュアルを整備している。ホーム及び法人に身体拘束廃止委員会があり、研修や委員会を実施している。毎月のケア会議で、ケアの振り返りや言葉遣いや事例研修を行い、意識しながらのケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議を通して、利用者対応を振り返り、虐待に対する意識づけを行っている。特に、言葉による拘束、暴言、虐待が精神的苦痛やストレスを与えることを認識しながら対応している。資料を参考に意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム会議等で学ぶ機会を設けている。いつでも活用できるようにファイルを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に訪問して頂き、契約時には、ケアへの取り組みや「運営規定」及び「重要説明事項」に基づき、入居者様の状態変化時や、退去時の対応など説明、ご家族の希望など契約時に話し合い納得していただき同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や不満は、日常的に発言できるように働きかけ日常の会話や表情などにて把握できるよう努めている。ご家族の相談も受け納得のいく対応に努めている。意見箱も設置している。	利用者の思いや意見は、日常の会話や表情・しぐさの見守りで把握に努めている。家族からは面会時や行事参加時に意見交換を行い、要望を聞いている。出された意見要望は、職員で話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、グループホーム会議とケア会議を行っている。職員の日々の行動の変化に気をつけ、コミュニケーションを図っている。中には、意見の言えない方もいるので、個別で面談なども行っている。	毎月のグループホーム全体の会議やユニット毎の会議、また日々の申し送り時で意見を聞き取る他、年1回の個人面談や相談事がある時には随時個別に面談している。日常会話の中でも利用者への支援方法や改善点など、意見を出し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、健康診断を実施し、定期的に職員の健康状態や疲労等へ配慮しながら、勤務条件等の意見も取り入れている。産休・育休制度や介護休暇制度を活用出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加出来るようにし、個人に合わせた研修内容を確保している。会議等で、研修報告の機会もつくり、情報共有の場を提供している。資格取得に向けての研修会などには、積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協議会に登録し、研修会や講演会を通して、積極的に参加しているが、職員間の交流までは至っていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、特にコミュニケーションをとるように心がけ、本人の居場所づくり、話の傾聴・不安の軽減、安心して生活できるよう努めている。特に、居室の環境面の調整を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族やご本人の状況について話し合う機会を設け不安や困っておられること、これまでの経緯などを伺い、これから何を望んでおられるかなど聞く機会を作るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、サマリー、申し送り等職員内同士の情報共有を行い、入居者様の身体的、精神的状態を把握し、必要な支援方法を検討し、ケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあって生きる同士と考え、出来ることは続けられるよう、出来ない事を支援することで、自立支援につなげている。一緒に作業等を行う事でよい関係性作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方のご家族には電話等を利用して、日常の様子や状態変化等の報告。行事等にも参加して頂き交流の機会を設けている。お便りや写真などで一か月の様子や活動もお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会時にゆっくりしていただける環境の提供。法人内施設に知人がいる場合は面会に行けるようにしている。	入所前の生活状況等をアセスメントで把握し、利用者毎に馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時には、ゆっくり過ごせる様に配慮している。本人の希望での買い物や墓参り等、家族と協力し支援している。これまでの関係が継続できるよう、家族と協力し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や日常の関係について、全て職員が共有し、お茶・レクリエーションなど、職員も一緒に会話を多く持つようにしている。トラブル時は、テーブルの配置など考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院された方など、お見舞いや容態伺い等、ご家族との連絡をとったり、お葬式に参列させていただいている。地域の行事などでお会いすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や生活歴などを参考に、日々の会話や過ごし方の中で、入居者様の意向をくみ取るように心がけている。また、ふとした言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さない、感じ取る気づきを大切にしている。	日頃から利用者との会話や生活の中で、本人の思いを感じ取りその思いや意向を把握している。入所時の聞き取りや家族からの情報収集を図り、職員で本人の思いを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあつたて、情報提供書や入居者様やご家族にこれまでの生活の状況などを伺いながら、面会時や日々の会話の中で話題にしたりして経過というの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれの生活パターンを観察し、能力や意欲に応じた日課や活動を支援している。体調や気分によってもムラがあるので、状態を観ながら強要しないよう柔軟に対応している。本人が思いを表現しやすいような環境に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行い、それぞれの意見をふまえ、ケアの見直しを行ったり、ケアプラン作成にあたっては、本人・家族の要望や意向を伺いながら、職員を交えたサービス担当者会議で介護内容や目標設定を具体化し個別に対応している。	アセスメントで本人の希望や意向を抽出し、本人家族の意向や主治医の意見・モニタリング等を基に、利用者主体の介護計画を作成している。半年ごとの定期的な見直しに加え、意向や状態に変化が見られた場合には、その都度見直し現状に即した介護計画となるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入、職員間で記録を読み、情報の共有に生かしている。ケア会議にて日々の気づき、出来たこと・出来なかったことを発表し、意見を出し合いケアの統一に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院、薬の依頼、受け取りなど職員が支援している。家族の要望による他科受診や外出支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている、どんと祭りや蒲生市等に出かけたり、地域のボランティアの訪問をうけたりしている。消防署の指導を受け、火災訓練や救急講習など実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院への受診や家族の同行が難しかったり、緊急性のある場合は職員が代行し、ご家族に経過報告を行っている。訪問歯科なども支援している。	定期的に母体医療機関の医師による訪問診療があるため、安心である事から、現在はほとんどの利用者が協力医療機関がかかりつけ医となっている。他科受診は家族の協力をもらったり、職員が同行する事もある。日常的に健康管理に努め、主治医や協力医療機関との連携体制も構築され、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員と看護職員は、日々の情報交換を行い、細かな観察記録・バイタルチェックが行われている。また、関連病院の医師や看護師と日常の健康管理や往診を通して情報提供や連絡体制などの連携に努め、良好な関係を構築している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、継続介護連絡表を病院に渡し、情報を共有する。入院時も洗濯物等持参時、病院関係者と情報交換・把握をし、今後の相談、見通しなどを行い、早期退院に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様の病状により、主治医・ご家族などを交えたカンファレンスを行い、今後の終末期の在り方について意見交換を行い、本人の希望も踏まえて、方針共有を行い支援に取り組んでいる。家族・本人の思いを柔軟に受け入れられるようにしている。</p>	<p>重度化や終末期のケアに対する指針は整備されており、入所時に本人及び家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で、主治医から病状が伝えられ、家族及び関係者で話し合いを繰り返しながら、可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる。看取りの事例もある。年1回看取りの研修を行い、ケアのスキルアップに繋げている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の指導による救急講習を受けている。自主訓練も行いながら、緊急連絡網の整備、研修を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を行い、夜間想定を実施するが、重度化の為、以前のような入居者様が全員避難することは、難しくなっている。併設施設の協力、民生委員への協力は行っている。</p>	<p>年1回の消防署立ち会いと、年2回の避難訓練を夜間想定のみで行っている。また連絡網や避難経路の確認、消火器の点検等の自主訓練も行っている。同敷地内の法人の協力体制は構築され、非常災害時の備蓄等は法人の施設内に十分に備えてある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	面会時等は、居室でお願いしたり、電話などは、その方に合わせて居室やスピーカーホンで事務所で話していただくなど配慮している。なれ合いな言葉かけにならないようにし、職員間でも注意できる環境にしている。	年1回人格の尊重やプライバシー確保、また個人情報保護等についての研修を実施し、意見交換を行い、尊厳に配慮したケアに取り組んでいる。居室への入室や排泄・入浴では、人格を損ねる言葉遣いやケアにならない様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけて信頼関係を構築し、日常生活の中で思いや希望を言葉表情などから主体的に行動や選択が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が意思表示される方は、主体的に行動していただき、居室、リビング、外への行き来は、自由である。思いを伝えられない方は、表情や、体調などを見極めながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪や身だしなみは、個々に合わせた支援を行いながら、洋服なども同じものにならないように、選択肢を作りながら、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者様の要望を取り入れながら、野菜のしたごしらえや、配膳、下膳、台ふき、盆拭きなど入居者様の出来ることを一緒に行うように努めている。	法人施設の献立を基に、利用者の嗜好や形態を把握し、菜園で収穫した野菜や季節感のある食材での調理、また行事食・手作りおやつ・ドライブでの弁当・ソーメン流し・寿司やバーベキュー等、食事が楽しみとなるよう工夫している。力量のある利用者は下ごしらえ・配膳・台拭きを楽しみながら行ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が立案したものを参考にし、食べる量や食形態などの工夫や、医療管理上の制限がある方もおり、個々に合わせた支援ができるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた支援を行い、日中はできるだけ見守りで自分で嗽やブラッシングなどして頂く。自歯の方などは、洗口液も使って口臭予防も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の管理能力や排泄パターンなどの把握を行い、排泄用品の提供、緩下剤の使用、声掛け、誘導し出来るだけ、トイレ使用を心掛けている。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。細目なトイレ誘導で、尿意が戻り布パンツにまで改善された利用者もいる。便秘予防に繊維質の多い食材や水分摂取・運動量にも配慮し、主治医と連携し改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行いながら、適宜、ヨーグルトや野菜ジュース・牛乳などの提供や散歩・軽体操などでスムーズな排便を支援しているが、排便困難時は、主治医や看護師などと連携し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望者は、毎日入浴して頂き、音楽を流すなどして温泉を楽しんでいただいている。体調や状況に合わせた入浴支援を行い、本人の意思確認を取りながら入浴して頂いている。日常的に一人ひとりの要望やタイミングにあわせることは難しいが、出来るだけ柔軟に対応を考えている。	基本的には、健康状態に配慮しながら週3回の入浴の支援となっているが、利用者の多くは毎日入浴している。天然温泉であり、10時から17時の時間帯で希望に沿って、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえる様配慮している。入浴中歌を唄う事で、嚥下の緩和にも良い結果がでてい。ゆず湯で季節を楽しむ等、入浴を楽しめる様工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、リビングと自室を自由に移動でき、いつでも休息出来るようにしている。冬場などは、布団の調整や湯たんぽなども使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認できるよう、個人ごとに記録と一緒にファイルしている。服薬は、入居者様の能力に合わせて、確実な確認を行うようにしている。病状変化に対応できるよう、主治医との連携も取れている。内服変更時は、申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活の中で、家事や買い物、畑づくりなど、役割を持っていただきながら、入居者様同士の会話や、職員との会話なども楽しんでいただけるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節に合わせて、花見・そうめん流し・外食・初詣など、入居者様の要望を取り入れながら、定期的な外出を行っている。</p>	<p>利用者の体調や天候を見ながら、日常散歩を楽しまれる方、菜園や買い物に行かれる方がいる。年間の外出計画があり、初詣・花見・鯉のぼり見学・ソーメン流し・祭りへと出掛けている。家族の協力で墓参りや外食・買い物に行く利用者もいる。家族の協力をもらいながら職員は、利用者のリフレッシュを図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大部分の方が、金銭管理は難しくなっている。金銭管理の出来る方は、外出時などに買い物をされることもある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙などのやり取りはないが、遠方のご家族や、贈り物が届いたりすると、お礼の電話など入れ、本人の話しやすい環境を提供している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来る方には、一緒に掃除をして頂いたり、季節感の感じれるような壁画づくりを行ったりしている。室温や湿度の調整なども心掛けている。</p>	<p>リビングは明るく開放感があり、室温や湿度の調整がされている。季節の花や手作り作品が飾られ、利用者がゆっくりくつろげるソファも置かれている。天然温泉のお風呂は利用者には好評である。生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや長椅子などでくつろがれたり、玄関先の椅子で花壇の花を見ながら外気浴をされ、入居者様同士で誘っておられることもある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の写真や使い慣れた寝具などを持ってきて頂いたり、タンスや椅子などの配置を工夫し、本人が自由に過ごせるような環境の工夫を行っている。</p>	<p>ベッド・エアコン・タンス等のホームの備え付け以外は、入所以前の使い慣れた馴染みの家具や小物を持ち込み、家族写真や自身の作品を飾っている。位牌や写真、馴染みの品を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの整備と自助具で生活活動が出来るよう、能力や意欲にあった使用を心がけている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない